

令和4年度 関戸公民館等利用者懇談会要点録（報告）

【開催日時】 令和5年1月20日（金） 午後7時から午後8時10分

【会場】 大会議室（第一学習室及び第二学習室）

【出席者】 学びあい育ちあい推進審議会（炭谷会長、布施委員）

永山・関戸公民館長、TAMA女性センター事業担当主査、他職員5名

【参加者数】 3人（4団体）

一 懇談会次第 一

開会挨拶

学びあい育ちあい推進審議会出席委員紹介・公民館等職員紹介

- 主な議題
- 1 公民館・TAMA女性センターからのお知らせ
 - 2 新型コロナウイルス感染症対策について
 - 3 意見交換
 - 4 総括

1 公民館・TAMA女性センターからのお知らせ

（1） 関戸公民館からのお知らせ

関戸公民館の開館は平成11年9月23日になる。開館してから20年以上ということになり、部分的に老朽化が進んでいるところも見受けられる。日常の活動において、不具合がある部分については、随時修繕等をしてなるべく使いやすいようにと心がけている。

関戸公民館では令和3年12月から令和4年7月末まで、市民ロビー（天井）の耐震性・安全性をより高めるため工事を行った。工事の間は通路を狭くしたほか、ホールなどの貸施設の利用制限も行った。工事も無事終わり、令和3年8月からは通常通りの開館・運営となっている。

（2） 令和元年度の意見・要望に対する回答（永山公民館）

- お年寄りや子どもたちの交流の場にもなる将棋等で遊べるスペースを確保してほしい。またそのための将棋セットも用意してほしい。

－（回答）－

スペースの問題だけでなく、感染症の感染状況等についても考慮し、検討を継続する。

- 関戸公民館の和室の座卓が少ないので増やしてほしい。

－（回答）－

座卓を使用しない活動をされている団体もいる。

和室は収納スペースもすくない部屋のため、現在の数が活動に支障をきたさない数であると思うのでご理解いただきたい。

○調理室の調理器具の汚れが気になる。

－（回答）－

利用後の報告書に随時気になる点については記入いただき、ご報告ください。職員の方でもその都度確認を行う。

○公民館の印刷機や折り機は便利なのでお勧めしたい。

－（回答）－

令和２年度、永山公民館に新たな印刷機を導入している。引き続きご利用いただきたい。

○ホールを踊りで使用する際、着替えが必要になる。

ホール控室は土足の部屋のため、着替えの際は着物が汚れてしまう。ホールを使用する時は、和室も併せて予約をしたい。

－（回答）－

永山公民館の諸室については、３か月前に優先団体を対象に抽選を行っているため、現状、ホール予約時に合わせての予約はお断りしている。着替えについてはホール控室のご利用をお願いしているところであるが、この度頂戴したご意見については、今後の運営の参考とさせていただく。

（３） 令和元年度の意見・要望に対する回答（関戸公民館）

○少し防音の施設を増やすだけでもいいと思う。大規模改修に合わせて整備しないのか。

－（回答）－

防音設備は簡単に整備できるものではない。現実的に考えて早期に対応することは難しい状況である。現在は築２０年を経過した設備の更新・修繕および特定天井の安全対策工事を目的として実施しており、防音設備対策等のような建物躯体に係る大規模改修については築３０年目の改修工事での検討課題となる。

○ホールにある市民ロビーで使えるピアノを１週間に１回程度、自由に奏でることができるストリートピアノとして活用したらどうか。

－（回答）－

ピアノはフルコン（本番用）とC3（練習用）の２種類あるが、それぞれ本番用・練習用と利用しているため、市民ロビーで定期的に使うことは難しい状況である。

テレビ等で放送しているストリートピアノは、空港や駅等通り過ぎる場所で実施しているもの。一方、市民ロビーは居場所としての空間であることや聴かせる音楽としてのレベルを保つことができるかも不明であるため、実施は難しいと考える。

（４） TAMA 女性センターからのお知らせ

※報告事項のみ（質疑等なし）

ワークショップルームの全体の利用率は令和元年度が 56.6%、令和２年度が 34.7%、令和３年

度が 41.7%。令和 2 年度はコロナの関係でキャンセルや、利用を控える方が多くいらっしまった。令和 3 年度からは皆様に感染対策のご協力をいただいたおかげで、利用率の回復が見られている。ただ、利用率は低い状態で推移しているので、まだ利用したことが無い方はこれを機会にご利用を検討いただきたい。

TAMA 女性センター登録団体として登録すると一般団体の利用よりも 1 ヶ月早い 3 ヶ月前からワークショップルームの予約ができるほか、活動交流室の利用や活動交流室に設置してあるロッカーの使用もできるようになる。登録も含めて利用の検討をしていただきたい。

また、ワークショップルームは会議や実習で使う部屋だが、多摩市の中でも数少ない調理のできる部屋でもある。そういった部分も含め、ご利用の検討をいただきたい。

2 新型コロナウイルス感染症対策について

※報告事項のみ（質疑等なし）

令和 2 年 3 月 2 日～5 月 28 日まで閉館していた。（途中で一部開館の期間あり）その後も 20 時閉館や 21 時閉館、17 時閉館等、開館状況については様々な状況が起きた。その中でも市民の皆様、団体の皆様が消毒、ソーシャルディスタンスの確保、検温・体調管理などを十分気をつけて頂いていたおかげで、安心安全を担保しながら運営できた。

閉館時間など市の公共施設がどういった方向性で行くかは多摩市のコロナ対策本部で決定される。その対策もコロナの感染拡大状況に応じて二転三転し、運営上戸惑うことも多かった 3 年だった。皆様方にもご迷惑をおかけした部分もあるかと思うが、ここまで事故もなくやって来られたのは皆様方のご協力あってのことだと感じている。今後も国・都の動向（感染症法上の位置づけを 2 類相当から 5 類へ変更するなど）を見据えながら、市として対策を進めていく。対策を行う際には皆様にホームページ、チラシやポスター等でお知らせをし、皆様の協力をいただきながら安心安全な公民館運営をしていきたい。

消毒については、もう不必要だと言われることもあるが、保健所の方から消毒は継続したほうが良いという話をもらっている。また、市の公共施設として、コミュニティーセンターや福祉館などと基本的には同じ対応をしている。

皆さんにも引き続きご協力をいただきながら公民館をご利用いただきたい。

3 意見交換・交流

※意見・質問の順番は順不同

○子どもが公民館に集まって行う活動の時と、大人だけの保護者会（子どものための活動計画づくりや日々の報告会など）の時とで利用者 ID が別々に存在する状態。どちらも子どものための活動なのに、分けることに疑問を感じる。

－（回答）－

公民館としては、公民館内で子どもが活動する団体か否かを料金の減免の根拠とし、料金を皆様からいただいている。

今回の件は、同じ子どものための活動ではあるものの、それぞれ活動する際の構成員が異なるため、料金が変わる。そのため、別々の団体として登録をお願いしている。どちらも同じ、子ども

のための活動ということは理解しているが、公民館としてはこのような形で運営していることをご理解いただければと思う。

○初日抽選について現在毎月来館して抽選しているホール・ギャラリーの「初日抽選会」について、パソコンでの抽選にしてもらいたい（事前 電話での要望）

－（回答）－

来館しての抽選には、日時の調整ができること（来館した方同士で希望日を1日ずらせばお互い気持ちよく使えるなど）や、希望を出してもらったもの以外の日程を、調整の上取ることができるといったメリットがあり、現在において継続している。

そこに来た方同士が話をし、調整をしてみんな丸く収まるというようなことも公民館のコンセプト、「つどう・まなぶ・むすぶ」につながるものだと考える。

現システムでの対応可否、改修の必要性、実施方法等の調査・検討が必要であるため、今回寄せられた要望として両公民館の検討課題と捉えさせてもらう。

●サークル構成員の方の高齢化が見受けられる。若い方が入ることで、世代交代や新たな展開も考えられる。若い方に活動に参加してもらうため、どのような工夫があるか話し合いたい。（職員より）

－（質問）－

若い世代の人たちが登録している団体はあるのか？

－（回答）－

高校生以下のメンバーで登録される団体や、高校生だけが構成員の団体もある。近隣に大学もあるため、大学生のメンバーで登録される団体もある。

－（意見）－

若い世代と交流する機会が少ない。次の世代にバトンタッチするためにも、若い世代と交流する必要がある。どうすれば若い世代と一緒に活動でき、活動をバトンタッチしていけるかということが、すごく気になっている。街づくり施策は多摩市内で行われているが、公民館だと地域ブロックの中で考えられるため、公民館活動などの中でできないものかと考えている。

若い人たちの考え方が分からない。介護に関する活動をしており、介護者の中に若い人はいるが、「介護」にとらわれている人が多い。どうやったら、活動を理解してもらい、交流につながるか。

－（回答）－

公民館では貸館だけではなくいろんな事業を行っている。地域で活動している団体同士がつながれるようにという意図で始まった、VITA ふれあいまつり（旧：地域ふれあいフォーラム）などに参加していただくことで、団体同士の交流につながると考えている。

ただ、若い人を取り込んでいくというのは非常に難しいこと。公民館で事業をやっても、若い方に来てもらうのは難しい。日中に行っていたものを、平日の夜など、現役世代の方にも参加しやすい時間帯に設定しても、中々来てもらえない。現役の方、若い方を取り込んでいくのは公民館としても一つの課題と捉えている。

いろいろな事業を通していろんなつながりをつくっていただくのが公民館という場だと思っている。VITA ふれあいまつりではイベントだけでなく、活動を紹介するような展示ブースも用意している。VITA ふれあいまつり以外にも、公民館では色々な事業をやっているので積極的にご参加いただくと少しずつではあるが、活動に広がりが見られると思っている。

－（意見）－

イベントにすると準備が大変だが、なにか特定のテーマについてスポットで話し合う会をつくってもらえとつながっていくのではないかと思っている。若い人たちは「継続的に活動しないとイケない」と考えてしまうようで、なかなかつながっていかず、難しい。

－（回答）－

VITA ふれあいまつりでは、できるだけ若い方にも活動の場所を持ってもらって、お年寄りばかりではなく、子どもも若者も足を運んでもらえるようにというコンセプトで実施した。

夏休み、家族で公民館にプラッと寄ってもらい、「公民館ってこういうことやっているんだ。面白いね。また、今度来ようね」と言ってもらえるような機会にしようと考えた。

ボランティアセンターに協力いただき子どもと大人で遊べる昔遊びのコーナーをつくった。

大学生のボランティアも大勢参加してくれた。公民館で関わっている多摩演劇フェスティバル実行委員会の帝京大学の演劇サークルの方たちに参加いただいた。当日のステージ数に限りがあり出られなかったため、ステージに出る代わりに市民ロビーの MC や館内の撮影、パフォーマンスしながら館内案内してもらった係など「人前に入る役割」をお願いした。

結構な人数の大学生が協力してくれて、地域の子どもたちや高齢者の方をサポートする活動が今回少しできたと思う。

こういうつながりを機会に、皆さんの活動などとも、なんらかの接点を持てるよう、コーディネート（お膳立て）ができればなと思っている。社会教育主事の職員がいるので、気軽に「こういうのってできないのかしら」とどンドン捕まえて言ってもらえればと思っている。そういう相談に応じるのも公民館の役割なので、何か思いついたら声をかけてください。

○食事については連続利用の際に昼ごはん・夜ご飯をとることができ、ありがたい。

－（回答）－

以前の利用者懇談会で話が出たが、公民館の貸部屋で食事をとることができるのは、連続利用時の昼ごはんと夜ご飯のみで、理由は次の団体が利用するときに、食事の匂いが残らないようにするためである。また、絨毯敷きの部屋も多いため、こぼしたり、汚したりすると跡が残ってしまう。その点は注意いただきながら飲食して頂きたい。

○点字ブロック延長設置について、以前より要望している 7 階エレベーターから 8 階に上がるらせん階段までの点字ブロックの延長設置を要望したい。（事前 電話での要望）

－（回答）－

来年度の初めに設置できるよう業者と調整中。

○ヴィータ・コミュニネのエレベーターについて、現在一番左側のエレベーターだけが視覚障がい者対応(点字対応)がなされているが、他の2つのエレベーターについても、対応を希望する。

(事前 電話での要望)

－ (回答) －

多摩市の専有部分ではなく、管理組合の持ち物(ビル全体の共用部分)のため、ビル全体を管理している管理組合に、今回の意見を提示し、対応して頂けるよう提案していく。

4 総括

学びあい育ちあい推進審議会委員より感想

1 4つのグループのみの参加ということで少し残念。ただ、お話を伺う中で、コロナ禍でも、皆さんたくさん活動なさっていることが分かり心強く感じた。

会場の予約やそのほかのことでお困りのこともあると初めて知った。先ほどお話しがあったように、会場を譲り合うような形で上手くやっていくことは、公民館のコンセプト、「つどう・まなぶ・むすぶ」からいってもよいことだと思った。

また、団体特有のお悩みがあるということを知って、本当に勉強になった。公民館の催しなども利用いただき、益々活動を広げていただければと思った。

2 社会的意義のある活動をされたり、趣味の活動を同好の皆さんと一緒に続けていることに対し、大変、敬意を表したいと思う。

この3年コロナに遭遇し、館を閉めるようなこともあったが、だんだんと先が見えてくるような形で活動を再開されてきていると思う。その中でいろんな課題も出てきている。今日話が出たのは、若い人たちにどうやって活動を知らせ、いま続けていることを、どうやって若い人たちに継続してもらえるか、また、他の団体と協力して何か一緒にできないか等、そういう話が出てきたと思う。もしかしたらずっと一緒にやってきた仲間同士で続けていく方が楽なのかもしれないが、団体の活動を継続していくためにも様々な試みをしていただきたいと思います。

私自身、大妻女子大学に所属している。いまも、唐木田キャンパスには一学部のみではあるが、大学生が集まっている。中高生も唐木田に集まっている。そんな学生や生徒たちに、活躍できる場を与えて頂けるととてもありがたい。大学生たちに声をかけるには地域貢献室と呼ばれるような窓口を通す必要があったり、お願いすれば必ず誰かを派遣してくれるわけでもなかったりと、空振りも多いかもしれないが、ぜひ活用してほしい。多摩市内には大妻女子大学以外にも、大学があり、地域を広げれば八王子市などにもたくさんの大学がありますので、活用いただければと思う。

大学側も地域の皆さんとのつながりを持つよう問題意識を持つ必要があるが、ぜひとも皆さんからも門をたたいていただき、活躍の場を与えて頂きたいと思う。また私自身も子どもたちを対象にした活動を続けていて、その私たちのグループと一緒に何かやるなどの機会も与えていただくとありがたい。

ぜひ今後ともお元気で、活躍して頂ければと思う。ありがとうございました。